

令和元年 5月10日

第172号

NJ素流協 News

令和元年 5月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

表 平成30年度取扱量 (共同販売・システム販売分)

| 区分 | 合板用 (m ³) | 製材・集成材用等 (m ³) | 計 (m ³) | バイオマス発電用 (t) |
|-------|-----------------------|----------------------------|---------------------|--------------|
| H30実績 | 209,069 | 151,637 | 360,706 | 120,664 |
| 計画量 | 210,000 | 145,000 | 355,000 | 125,000 |
| 計画比 | 99.6% | 104.6% | 101.6% | 96.5% |
| H29実績 | 193,593 | 131,167 | 324,760 | 118,539 |
| 前年比 | 108.0% | 115.6% | 111.1% | 101.8% |

▽共同販売・システム販売
共同販売及びシステム販売における取扱量は、合板用針葉樹素材を主体として合計36万m³となり、計画比101%、

前年比111%となった。バイオマス発電用素材については、取扱量が12万トンとなり、計画比96%と、目標に若干足りないものの、前年を上回る実績となった。バイオマス素材を1トン＝1m³として材積に換算すると、合計で48万1千m³となり、トータルとしては目標を達成することができた。

用途別には、合板用素材の取扱量計は20万9千m³で、計画比99%、前年比108%であった。樹種別内訳は、スギ12万9千m³(構成比62%)、カラマツ4万7千m³(同22%)、アカマツ3万3千m³(同16%)。合板用材取扱量の増加の要因としては、設備投資により生産性が向上し、素材使用量が増加したこと、国産材利用率が上昇していることがあげられる。

製材・集成材用等素材は15万1千m³で、計画比104%、前年比115%となった。樹種別内訳は、スギ13万7千m³(構成比91%)、カラマツ2千m³(同1%)、アカマツ7千m³(5%)、その他5千m³(同3%)。組合員の増加と、取引先増加の努力が結果につながったものといえる。

ノースジャパンプン素材流通協同組合 平成30年度素材取扱量 合板・製材・集成材・バイオマス等で目標を達成

▽共同販売・システム販売

▽共同販売・システム販売

▽共同販売・システム販売

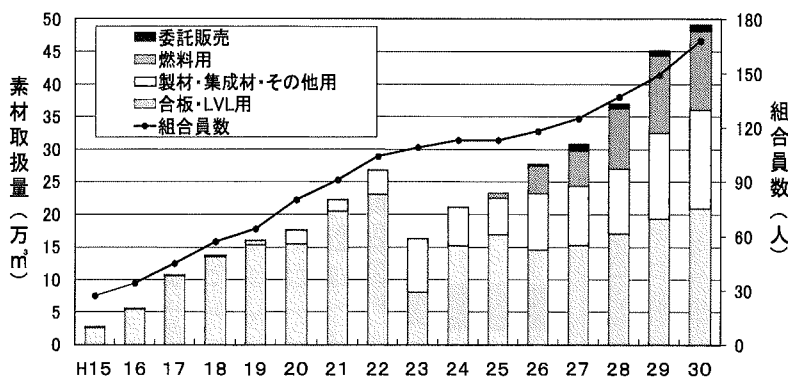


図 NJ素流協素材取扱量・組合員数の推移

▽取扱量及び組合員数の推移
取扱量・組合員数の推移は次の図のとおり。

▽取扱量及び組合員数の推移
取扱量・組合員数の推移は次の図のとおり。

▽取扱量及び組合員数の推移
取扱量・組合員数の推移は次の図のとおり。

令和記念新企画

写真送付による相談サービス『フォトソリューション』開始

当組合は5月より、原木などの写真送付を通して組合員からの種々の相談を受け付けるサービス『フォトソリューション』を開始する。

組合員が素材生産や流通・販売、造林や育林などの事業を行うなかで、判別や判断に困った際に関連する写真を送付いただくことで、当組合事務局が解決のお手伝いを行う仕組みだ(図1)。

以下に活用例を紹介する。

活用例その① 納入できる品質か否か

生産した原木について、納入先工場にて求められる品質規格に合致するかどうか迷った際に活用。

例えば山土場にて極積(はいづみ)を木口側から撮影することで、木肌の色や目詰まりの程度、変形・偏芯やトビ腐れの程度などを確認

することができる。横からの撮影では、節の数や曲がりの程度などを確認することも可能だ。

送付された写真を元に、事務局にて納入の可否を判断する。品質や規格などに不具合のある場合は、ほかの納入先を案内したり仕分け方法の提案を行ったりするなどの対応を行う。

写真のみで判断がつかない場合には、営業企画部スタッフが現地まで赴いて確認するなど対応する。

活用例その②

松くい(ナラ枯れ)被害木だ

アカマツ松くい虫被害木についても、被害の程度によってバイオマス発電の原料などの用途で販売できる場合とできない場合がある。これに関しても写真の送付によりある程度判断することが可能だ。

ナラ枯れの被害にあった原木についても同様に、被害の程度や品質に応じた販売先の提案を行う。



図1:写真送付による相談サービス『フォトソリューション』の活用イメージ

活用例その③

よい丸太なので高く売れそう

高年齢で目詰まり良好といったような高品質な原木が出材した場合にも活用できる。写真からある程度の材質判断を行い、最適な販売先を提案する。

場合によっては、有効活用できる需要者とのマッチングを行い、山土場にて一本一本原木を査定してもらうなど可能な限り高い価格での有利販売をサポートする。

活用例その④

樹種がわからない、売れるかな

広葉樹原木や特殊な針葉樹など、樹種やその活用方法がわからないといった場合にも活用できる。送付された写真を元に、事務局にて樹種を判別してお知らせする。そのうえで、原木の品質や伐採時期などを考慮して販売先の提案まで行う。

事務局にて判断がつかない場合

には、専門家に問い合わせるなどして最大限の解決を図る。

上記のほかにも、生産した原木に関することであれば何でも受けつける。また原木だけでなく立木の状態であっても対応可能。

写真の送付については、データでのメール送付、プリントの郵送、持ち込みのいずれの方法でも可。この件についての問い合わせは、ノースジャパン素材流通協同組合営業企画部まで。

☎ 019165217227

送付方法 (以下のいずれの方法でも可)

■メールによる送付

photo@soryukyo.or.jp
ノースジャパン素材流通協同組合 営業企画部 宛

■郵送 または 持ち込み

〒020-0024 岩手県盛岡市菜園1丁目3番6号
(農林会館内)
ノースジャパン素材流通協同組合 営業企画部 宛

トピックス

いわて林業アカデミー
平成31年度開講式

いわて林業アカデミーの平成31年度開講式が4月10日、岩手県矢巾町の県林業技術センターにおいて挙行され、第三期生となる研修生17名が出席した。来賓として上田幹也県農林水産部長、佐々木順一県議会議長、小島孝文東北森林管理局長が招かれたほか、父兄、アカデミーを支援するサポートチームの企業・団体代表など約70名が列席して新入生を歓迎した。

同センター漆原隆一所長が研修生代表に対し研修許可証と安全服一式を手渡し、「林業関係団体からは研修生への期待がますます高まっている。自己の可能性に挑戦し、積極的に技術を習得して欲しい」と激励の言葉を述べた。

を修了して、当組合員を含む岩手県内の素材生産事業者等へ就職している。



第三期生17名を迎えたアカデミー

今年度の研修生は年齢10代から30代、男性16名に加えて、初めて女性1名が入校した。出身地は岩手県盛岡市2名、宮古市1名、花巻市2名、久慈市1名、遠野市1名、一関市1名、陸前高田市2名、奥州市2名、滝沢市1名、雫石町1名、紫波町1名、秋田県大館市1名、福岡県春日市1名。このうち高校新卒者は5名、一般選考合格者が12名となっている。

研修生は来年3月まで林業全般の知識や技術を習得するとともに、伐木等機械の操作等、林業就業に必要な9つの資格等を取得する。サポートチームの企業・団体は講師を派遣するほか、現場実習や就業体験を受け入れる。当組合は今年度も引き続き木材流通に関する講義を担当する。

森林窃盗・無断伐採の未然防止に向けた要請について

昨年10月、宮崎県宮崎市で「伐採と伐採後の造林の届出書」を偽造して行政機関に提出させ、所有者に無断で木を伐採させ窃取したとして、立木取引仲介業者らが有印私文書偽造・同行使、森林法違反（森林窃盗）の疑いで逮捕・起訴されていた事件で、宮崎地方裁判所は本年3月20日、同被告らに懲役2年6か月、執行猶予5年などの有罪判決を言い渡しました。

なおこの事件の後も、森林所有者に無断で伐採が行われ、被害届

が提出される事案が複数発生しています。

これに対して林野庁は、無断伐採に対する未然防止策の強化を図ることとし、①伐採届出制度の運用改善、②優良業者の育成と悪質業者の排除、③合法伐採木材の流通の徹底を柱とする対策をたてています。また全国の各都道府県に対しても林野庁の方針に基づく取り組みを求めています。

具体的な取組みとして、伐採届提出時に登記簿謄本や立木売買契約書を添付すること、法令違反者は「意欲と能力ある経営体」リストから削除し、名前と理由を公表すること、県レベルで「合法伐採木材利用推進協議会（仮称）」を設立し、業界全体で悪質業者が供給する木材を排除することなどが含まれています。さらに林野庁は、警察の求めに応じて、誤伐等により行政指導を受けた伐採業者等についての情報提供を行うことも明らかにしています。

このように、森林窃盗・無断伐

採問題は、林業に対する国民の信頼を失墜させるだけではなく、林業関係者全体にとって深刻な影響を及ぼす問題です。私達は一致団結し、未然防止の取組みを進めることが必要です。組合員の皆様のご協力をお願いいたします。

合法木材等供給事業者認定（平成30年度）

新たに認定された事業者は次のとおりです。

| 認定番号 | 組合員名 | 認定年月日 |
|---------|-----------|-----------|
| 素流協-127 | K・Sテック(株) | H30.9.7 |
| 素流協-237 | (有)オー工商事 | H30.9.7 |
| 素流協-604 | (有)庄司林業 | H30.10.12 |
| 素流協-130 | 小林薪炭 | H31.1.22 |
| 素流協-408 | 笠原林業 | H31.3.15 |

災害時における応急対策業務に関する協定の締結状況

先月の当組合ニュース第1771

号でお知らせした「災害時における応急対策に関する協定」に協力いただける組合員の方々は、4月26日段階で61（個人、会社、団体）となりました。岩手県の広域振興局管内ごとの協力組合員数は、盛岡局管内18、沿岸局管内19、県南局管内15、県北局管内9となっています。4月26日に協力組合員名簿を作成して県に提出しました。協力していただける組合員の皆様のお申し出は5月以降も受付いたしますので、ご協力のほどお願いいたします。

「意欲と能力のある林業経営体」募集状況

各県で募集の時期が異なっており、岩手県ではすでに3月中旬に終了しています。岩手県以外の各県の状況を聞き取りしたところ、次のようになっています。青森県と秋田県は5月上旬、山形県は6月以降、宮城県は6月に募集開始という予定になっていますが、正確な時期は未定です。5月から順

次各県のホームページに募集情報が公開されるのでご確認ください。

国有林販売委託決定

令和元年度の国有林山元委託販売の取り扱い数量が決定いたしました。岩手南部署・岩手北部署管内に加え、盛岡署・岩手南部署遠野支署管内の素材について年間約15,000㎡の販売を予定しております。入札方法は、WEB入札(インターネットからの入札)で行います。入札に必要なログインID、パスワードの発行を希望される方は、営業企画部までお問い合わせください。

事務局人事異動

〔4月1日付 新任〕

駒木 貴彰 (こまき たかあき)

経営企画管理部長

〜ご挨拶〜

竹田参与兼経営企画管理部長の後任として勤務することになりました。出身は岩手県一戸町です。

3月末まで(国研) 森林総合研究



〜ご挨拶〜

竹田 光一

参与兼経営企画管理部長

〔3月31日付 退職〕

所の研究職として、林家経営の動向調査や低コスト再造林技術等の研究開発と研究所の組織運営に従事してきました。皆様のご指導ご鞭撻をいただきながら、各種情報やサービスの提供に努めて参りましたので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

組合員の皆様、お取引企業並び

に関係機関・団体の皆様、この5年間大変お世話になりました。岩手県森林再生基金、まき支援プロジェクトなど多くの事業、取組みにおいてご協力・ご指導を賜りましたことを心より御礼申し上げます。全国から視察者が絶えない素流協に勤務したことは自分の誇りです。組合並びに会員企業各位の益々のご発展を祈念申し上げます。

お知らせ

第16回通常総会を次のとおり開催します。組合員の皆様の出席をお待ちしております。

〔日時〕 5月27日(月)

* 通常総会 15時30分〜

* 懇親会 17時30分〜

〔場所〕 ホテル メトロポリタン

盛岡ニューウイング



おすすめの本

森林保護と林業のビジネス化

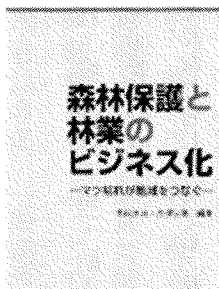
〜 マツ枯れが地域をつなぐ 〜

編著：中村克典、大塚生美

発行：(株)日本林業調査会 (定価2,200円+税)

2019年2月28日第1版第1刷

マツ材線虫病防除技術が一定の確立を見た今、これからは病害木をバイオマス燃料として活用するとき！全国各地における防除技術の研究成果とともに、マツ枯れ被害木を燃料とする岩手県(株)花巻バイオマスエナジーの発電事業や、当組合の取組みも紹介されています。



* 管内需要先情報 *

(株)門脇木材はさきごろ、協和工場内に新たな製材工場を立ち上げました。大径材に対応した量産型工場で、これにより協和工場では既存の製材ラインと併せて年間5万㎡の原木消費量となります。N J素流協では今後、スギの大径材を中心に集荷することを検討します。

ちよつと気になる木の話

34

残材とは何か？

— 製材残材と林地残材 —

残材とは何か？字の通り残った材で、価値のない物となるが、本当にそうなのかを考えてみよう。

製材残材とは、柱材や板材を取った後の背板等である。一般的には、背板チップとして製紙業界に流れることになる。しかし、原木チップと比較すれば、背板チップの価格は安い。理由は残材だからと言われる。でも待てよ！北米から輸入されるチップは、製材由来でないの？そこで、ある時製紙連合会で某人に聞いてみた。曰く「北米のデイメンションランバーの製材の歩止りは40%位で、チップは60%となるので、主製品はチップである。だから背板由来の副製品の残材である日本とは違う」と。そんなことも知らないのかと言われた。それなら、日本でも主製品の歩止りが50%を割ったら価格が高くなるのかと反論すると「まあまあ落ち着いて」である。全く特異な自己論

理である。

今でも、針葉樹チップは国産材比率が高いので、納入用途として国産材は本当に必要なはずである。しかしこのままだと、チップと背板の価格が同じバイオマス工場への背板出荷にシフトする工場が増えると考えられる。かつては、山まで徒歩手当を払ってまで職員を原木集荷に歩き回らせていた製紙業界なのにねえ…。いずれにしても、製材残材は存在しないと云える。

次に、林地残材である。これは、集荷して運んでもコスト的に合わないため、林地に残しているという意味である。本来用材であつても、コストが合わない丸太は林地残材と言われる。

この最も激しい例が、ヘリコプター集材である。林地のない山中からヘリコプター集材すれば、優良木の元玉しか採算が合わないことになり、立派な二番玉以降も林地に残材となる。間伐でもm当たりの路網密度が上がれば、林地が整備されればコストをクリアできることとなる。

一方、皆伐では全く状況が異なることとなる。全幹・全木で林道脇まで集積すれば、林地残材はないのである。残材があつても「林道脇残材」である。「林地残材」の用語は適用できない。ましてや再造林する場合は、伐造一貫作業として、地拵え経費も節減できることとなる。

林道脇までくれば、主に残るのは、短コロと末木枝条である。ここで、何度も書いているように、9〜13cm 14〜16cm等の小径木を用材として販売すれば、更にコストを吸収できる。

それなら、林道脇残材を「残材」としない方法は何か、である。バイオマス用・製紙用のみならず、多用途チップ、おが粉に製品化できればOKとなる。現在バイオマス用は生々受け入れなので、短コロは元玉が多く、重量では価値がある。

林道脇残材の商品化に必要なと考えられることは、

- ①積込の爪を産廃用の長い爪に替えて、積込スピードを上げる。
- ②空気を運ばないように、1m採材等工夫して、積込を定尺化する。

③主作業ができない日に、こうした作業を行う。

④受け入れ工場の理解を得て、納入先を近くして運賃を下げる。

である。そんなことしなくても、林道に移動チップを持っていけばいいじゃんという声も聞こえる。しかしそれは、移動チップの往復の運搬コストが合うかという問題がある。膨大な量があれば可能であるが、例えばトラック数台位では逆に採算割れである。

地道に前述の①〜④を実行すれば、林地残材どころか林道脇残材も消滅する。立木からの歩止りは90%には達すると予測され、消滅を確信できる。製紙用だって、そもそも長さ1.5m以上と言われるのは、工場内のフォークリフトの中が決め手である。でも切削チップ用材の前には、トビを持った人がついていることが多い。短尺でも人力での調整が可能なのである。

50年以上育った木は、皆で大事にしたいと思う。自分が植えた木を伐っている人はほとんどいない。残材をなくしてご先祖様に感謝である。

平成31年4月分の販売実績

| 樹種 | 合板・LVL用 | | | 製材・集成材・その他用 | | | 計 | | |
|------|------------|---------|-----------|-------------|---------|-----------|------------|---------|-----------|
| | 当月出荷量 (m³) | 前月比 (%) | 前年同月比 (%) | 当月出荷量 (m³) | 前月比 (%) | 前年同月比 (%) | 当月出荷量 (m³) | 前月比 (%) | 前年同月比 (%) |
| スギ | 9,160 | 87.8 | 80.3 | 16,595 | 127.9 | 186.3 | 25,755 | 110.0 | 126.8 |
| カラマツ | 3,551 | 86.2 | 120.6 | 169 | 389.4 | 104.8 | 3,720 | 89.3 | 119.8 |
| アカマツ | 2,395 | 73.5 | 58.5 | 1,401 | 85.0 | * | 3,796 | 77.4 | 92.6 |
| その他 | 21 | * | * | 399 | 49.9 | 338.3 | 419 | 52.5 | 355.8 |
| 合計 | 15,127 | 84.9 | 82.0 | 18,564 | 120.0 | 202.1 | 33,691 | 101.2 | 121.9 |

| 樹種 | 燃料用 | | |
|------|-----------|---------|-----------|
| | 当月出荷量 (t) | 前月比 (%) | 前年同月比 (%) |
| スギ | 3,442 | 89.5 | 46.1 |
| カラマツ | 2,220 | 123.4 | 178.4 |
| アカマツ | 2,273 | 99.2 | 70.8 |
| その他 | 35 | * | * |
| 合計 | 7,970 | 100.4 | 66.8 |

| 樹種 | 今年度累計 | | | |
|-----------|--------------|------------------|---------|---------|
| | 合板・LVL用 (m³) | 製材・集成材・その他用 (m³) | 計 (m³) | 燃料用 (t) |
| スギ | 9,160 | 16,595 | 25,755 | 3,442 |
| カラマツ | 3,551 | 169 | 3,720 | 2,220 |
| アカマツ | 2,395 | 1,401 | 3,796 | 2,273 |
| その他 | 21 | 399 | 419 | 35 |
| 合計 | 15,127 | 18,564 | 33,691 | 7,970 |
| 目標達成率 (%) | 6.7 | 11.3 | 8.6 | 6.1 |
| 計画量 | 225,000 | 165,000 | 390,000 | 130,000 |

注)*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成31年4月の需給動向】

- スギの出材が順調、合板用・LVL用の原木在庫も増加し一部の工場で納入制限が発生。
- 集成材用のスギも順調に出材されているが工場からの要望も強く出荷量も増量した。
- 5月以降は国有林請負生産作業も始まり出材が減少、在庫超過の工場も落ち着く見込み。

耳からウロコ

タコ部屋の意味

― 林業と関係ある？ ―

「タコ部屋」というと、重要なプロジェクトを始める時、関係者以外は部屋に自由に入出入りできないよう厳重に管理し、要員を缶詰めにして仕事をさせるイメージである。タコつぼからタコが出られないように閉じ込めた意味かな。

実は、タコ部屋とは「他雇」部屋が正しい。この反対用語は「地雇」部屋である。北海道開拓時代、鉄道の敷設はインフラ整備の重要課題であり、天然林を伐採して工事を進めることとなる。しかし地元の作業員は少なく、本州から駆り出された。簡易な宿舎を造り、彼らをそこに缶詰め状態に宿泊させて作業させたのである。北海道ではなく本州の他の地域から雇用したため「他雇」部屋となった。ここでの労働条件が悪く、見張りがついて逃げられないことから、「タコ部屋」のイメージが確立する。一方、地元の人を雇った宿舎は

地元雇用の「地雇」部屋である。

ということ、本来その業務と関係のない色んな部署から集めた集団はタコ部屋となる。自らの部署でプロジェクトチームを造れば地雇部屋である。上司の自己都合でつくる自己部屋ではない(そんなこともありそうだが...)。

ところで、この北海道開拓時代の鉄道敷設の目的には必ずといっていいほど、不足していた資源を確保するための丸太輸送が書かれており、国鉄の駅からは更に森林鉄道が伸びることとなる。これに加えて、私鉄にも丸太輸送が絡む。札幌から定山溪へ向かう定山溪鉄道は、御料林も出資して、丸太・鉱石輸送が当初の目的に書かれている。温泉へのアクセスだけではないのである。土別軌道も国有林の出資が行われ、平成に入ってもまだ国が株式を保有していた。昭和34年に線路が廃止され、とくにバス会社となっていたが...

これらはやはり、林業にとって物流が重要である証である。タコ部屋のイメージアップは語源からすると無理かも。